

食を通した子育て支援

ー食育プログラム研究開発プロジェクトチームからー

熊本県立大学 松添直隆

2011年4月21日

今日の話の内容

食育プロジェクトとは

プロジェクトの内容

活動内容（平成20年度～22年度）

平成22年度に実施した

保育園における食育の実態調査

食育プロジェクトとは・・

「食育」は「人をよく育てる」と書くように食を通して
子どもの心身を健やかに育てることであり、
家庭や保育園などの日常の暮らしの中でなされるものであります。

それゆえに保育園における食は
子どもの発達に欠かすことのできない重要な保育課題となります。





しかし、残念ながら暮らしと子どもの発達を視野に入れた
総合的な支援プログラム・保育計画が見当たらないのも事実です。

そこで我々自身の手により
支援プログラムを開発・研究をするものです。

プログラム内容

食を通して、子どもの心身の健やかな発達、家族の団樂や家族間のコミュニケーションを高め、さらに地域社会とのつながりを深め、子どもたちがより豊かで充実した社会生活を営めるようにすること、食生活そのものが生活文化、食文化を形成する基本となること、その原点は家庭での食生活のあり方にあるという認識を共有します。

県下の食に関する活動をされている現場を訪問し、食事作りや現地での活動を体験するフィールドワークと参加者が主体的に発言しながらプログラムを開発していくワークショップを併用していきます。

3年間活動内容（平成20年度～22年度）

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
平成20年度	ワークショップ「食育」について考える	①実習「食と農の体験塾」 ②ワークショップ「食育の現状と課題の整理(1)」	①実習「里山で暮らす」 ②ワークショップ「食育の現状と課題の整理(2)」	講演と実習「生ごみリサイクルと野菜作り」	①実習「精進料理の調理実習」 ②事例発表会「保育園が行っている食育活動」	講演とワークショップ「生ごみリサイクルと野菜作り」	①講演会「保育園で進める食育の理論と実践」 ②公開講演会「楽しく食べる食育で子どもが伸びる」	ワークショップと公開講演会「旬について考える」	第2回子育て支援センター九州セミナー「保育者の専門性を生かした保護者支援とは」
	第1回		第2回		第3回		第4回		
平成21年度	講演と実習「生ごみリサイクルと野菜作り ～生ごみリサイクルと元気野菜づくりが食を大切に感じる心を育てる～」		①講演会「保育園における食育と理論～味覚と嗜好の形成について～」 ②交流会		①特別講演「いのち 愛おし」 ②講演「生ごみリサイクルと野菜作り ～元気野菜作りから元気っ子づくりへ～」		①実践事例報告会「保育園における乳幼児の発達と食の関係 ～2年間の研修と実践を通して見えてきたもの～」 ②ワークショップ「保育園における食育の課題と展望 ～次年度の食育計画作成に向けて～」		
	第1回		第2回		第3回		第4回		
平成22年度	①講演会『家族を育てる食卓支援』 ～心を育てる食卓・かわりを食べる～		講演と実習『食と農の体験』 ～食育活動に関する現状と課題の整理～		講演会「絵本から飛び出たおやつ 子どもの夢をかなえよう」 ～楽しみながら好きなものが増える子どもたちへ～		講演会『メディアに惑わされない食生活』 ～フードファディズムとメディアリテラシー～		

第1回

研究計画の作成「保育園における食とは？」



第2回

食と農の体験～みんなで体験してみよう～



第3回

里山・里地で暮らす～一緒に食べたい人がいる子ども～



第4回

生ゴミリサイクルと元気野菜とホールフード



大講義室での講演会・・



平成22年度に実施した 保育園における食育の実態調査

背景

多様化する生活習慣 (核家族・共働き)

昔...

家族が共に食卓を囲み、食を通して子どもの豊かな人間性が育まれてきた。

今...

家族が共に食卓を囲む習慣がなくなり子育ての場として「食」が崩壊しつつある。

家庭の親子関係
家庭と地域の連携
世代間の連携

昔に比べ
希薄化

2008年「新保育所保育指針」

食育の必要性

保護者支援の必要性

目的

本研究では、本支援プログラム開発事業のために保育園や家庭の食育等の現状を調査し、問題や課題を整理することを目的とした。

対象

熊本県地域子育て支援センター連絡協議会
に加盟する熊本県内の保育園51カ所

①園長先生1名

②保育士3名

③(管理)栄養士1名

④調理師1名

⑤保護者30名 計 36名×51カ所=1836名

51園中、40園から回答を得た(回収率78.5%)。
園長先生37名・保育士111名・(管理)栄養士19名・
調理師36名・保護者885名

計1089名の回答を得た

方法

- 調査は平成22年8月に実施。
- 食生活や食育活動に関する質問紙調査を行った。質問紙は被調査者の自己記入とし、用紙の配布、回収は園に依頼した。
- 統計解析にはPASW18.0を用いて、 χ^2 検定を行った。有意水準5.0%とした。
- 質問項目

[保育士・調理師・栄養士]

属性、食意識・行動、園の食育活動、園児について23項目

[園長]

他職員の項目に加えて園の理念など35項目

[保護者]

属性、食意識・行動、園の食育活動、家庭の食事状況など49項目

紹介内容

Q.保育の中で最も大切にしていることは何ですか？

Q.現代の子供の食環境づくりに最も大切なことは何ですか？

Q.子育てに関する食の情報源は何ですか？

Q.園児の家庭での食環境を把握していますか？

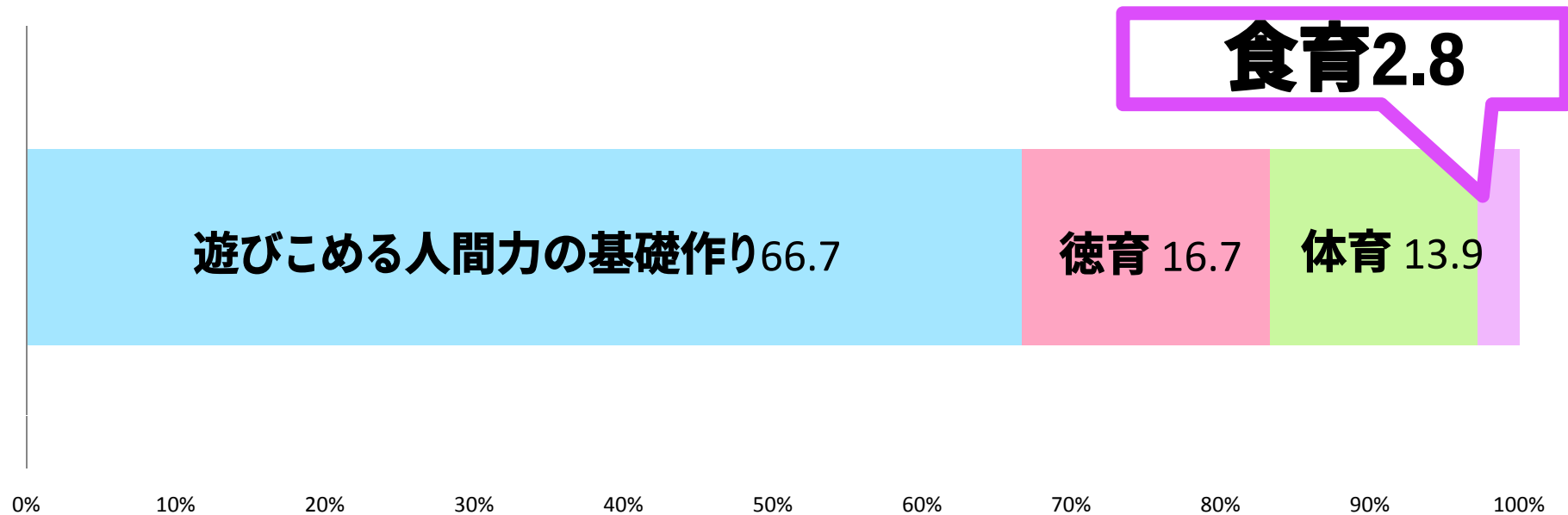
Q.園児の家庭での食環境を把握していますか？

**・子育て支援プログラム活動の効果
(参加者と不参加者による比較)**

結果

Q.保育の中で最も大切にしていることは何ですか？

対象：保育園



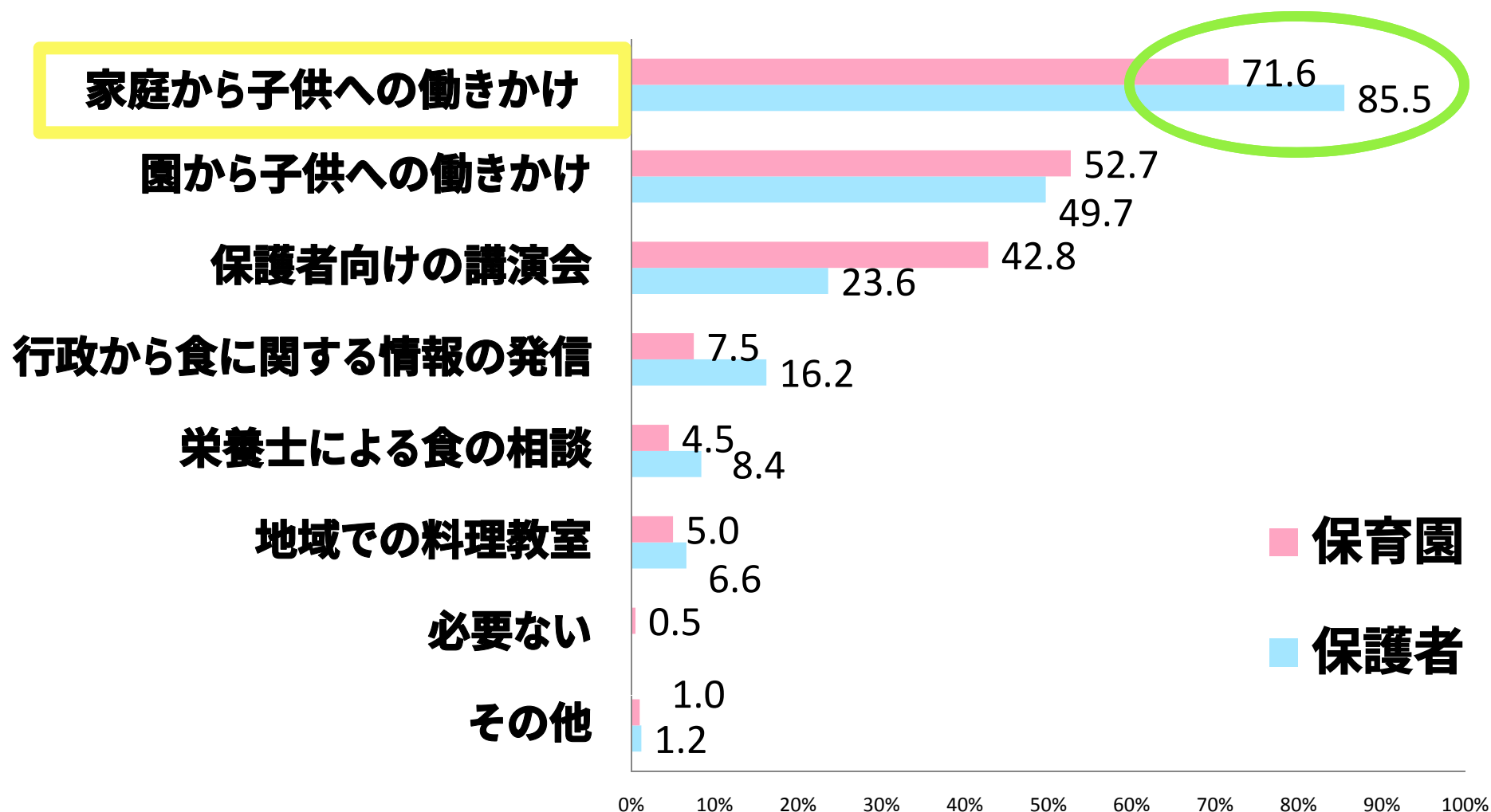
- 遊びこめる人間力の基礎作り
- 元気な体作りなどの体育
- 音楽などの芸術

- しつけなどの徳育
- 食育
- 語学学習を含む知育

結果

Q.現代の子供の食環境づくりに
最も大切なことは何ですか？

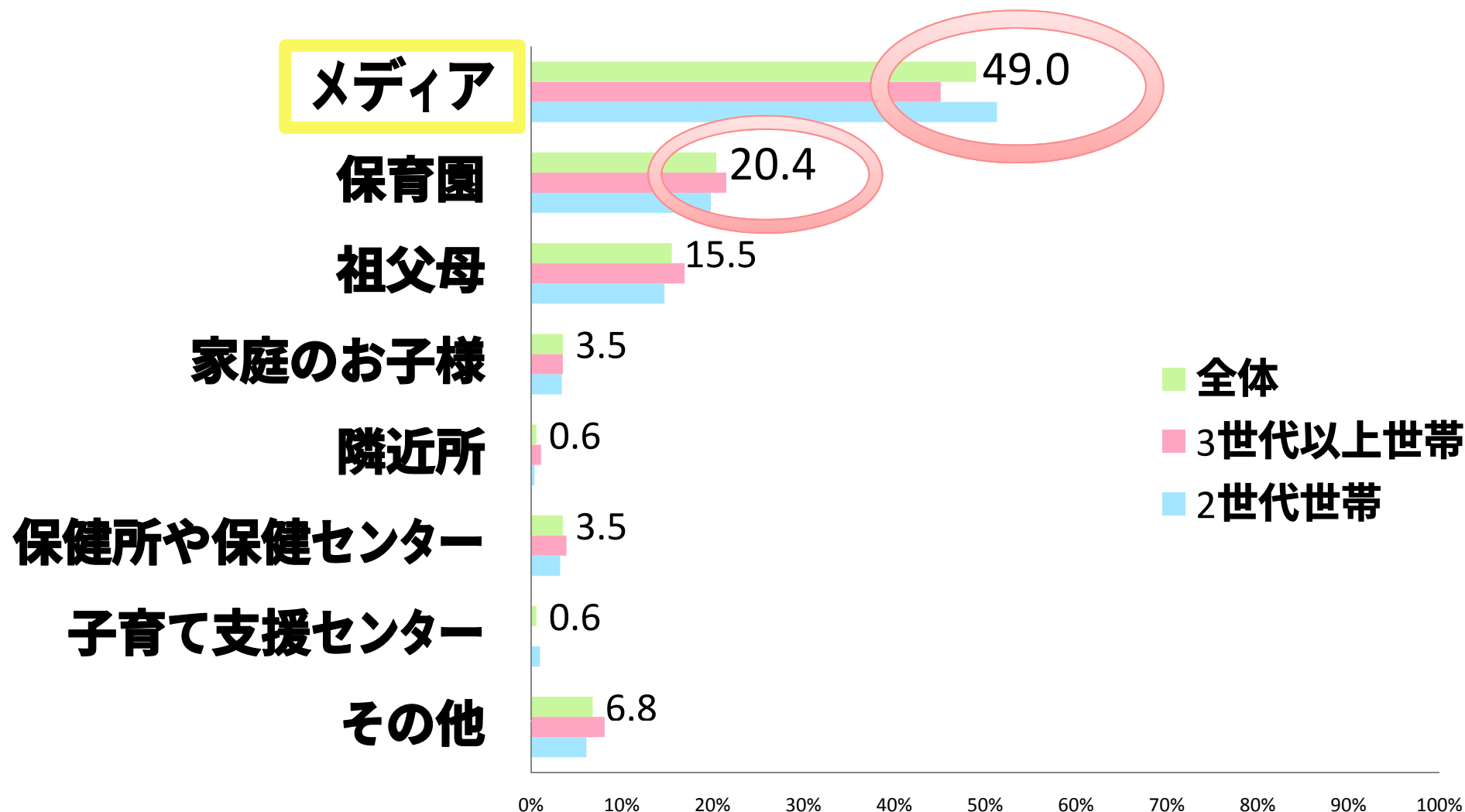
対象：保護者、保育園



結果

Q.子育てに関する食の情報源は何ですか？

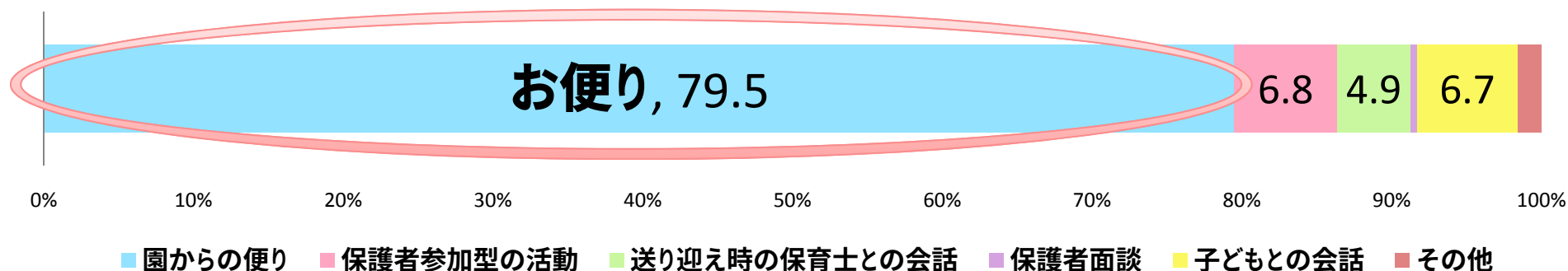
対象：保護者



結果

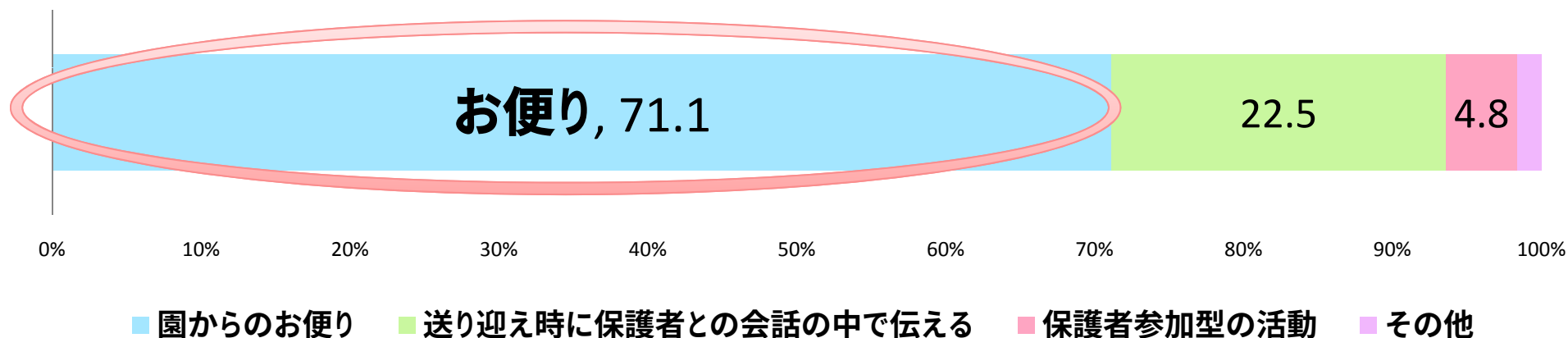
対象:保護者

Q.保育園の食育活動情報源は何ですか？



対象:保育園

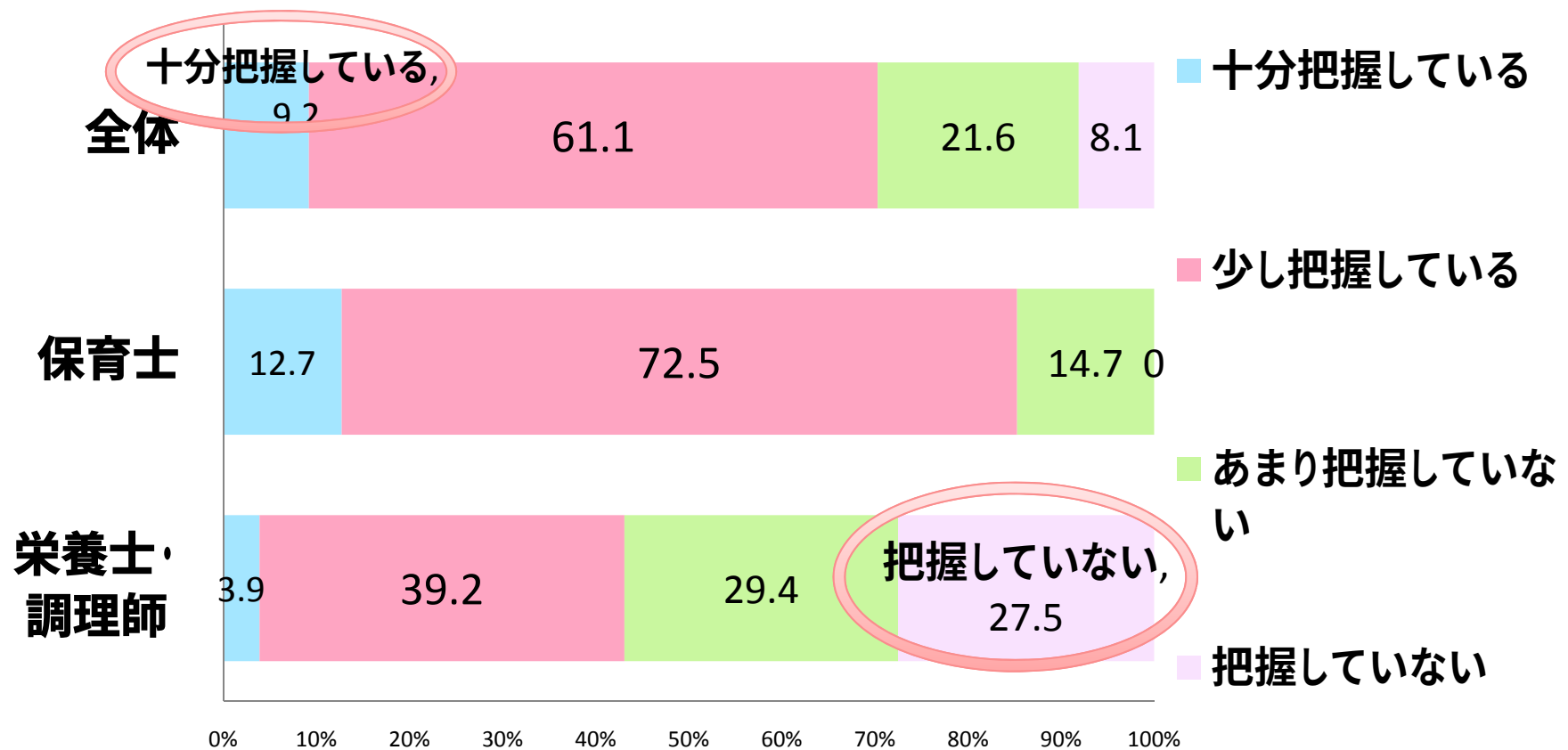
Q.保護者に対する食育活動の働きかけ方法は何ですか？



結果

Q.園児の家庭での食環境を 把握していますか？

対象：保育園

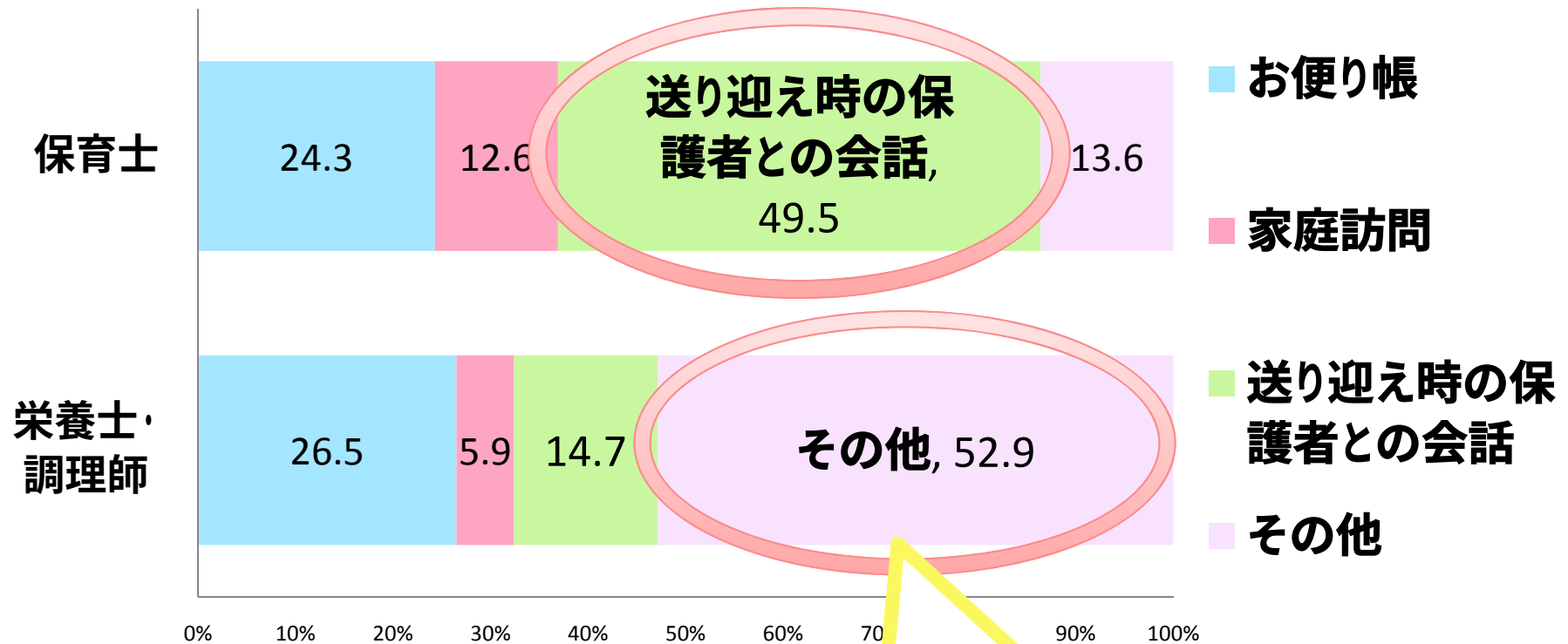


$p < 0.05$

結果

Q.園児の家庭での食環境を
どのようにして把握していますか？

対象：保育園



保育園でのアンケート実施など

$p < 0.05$

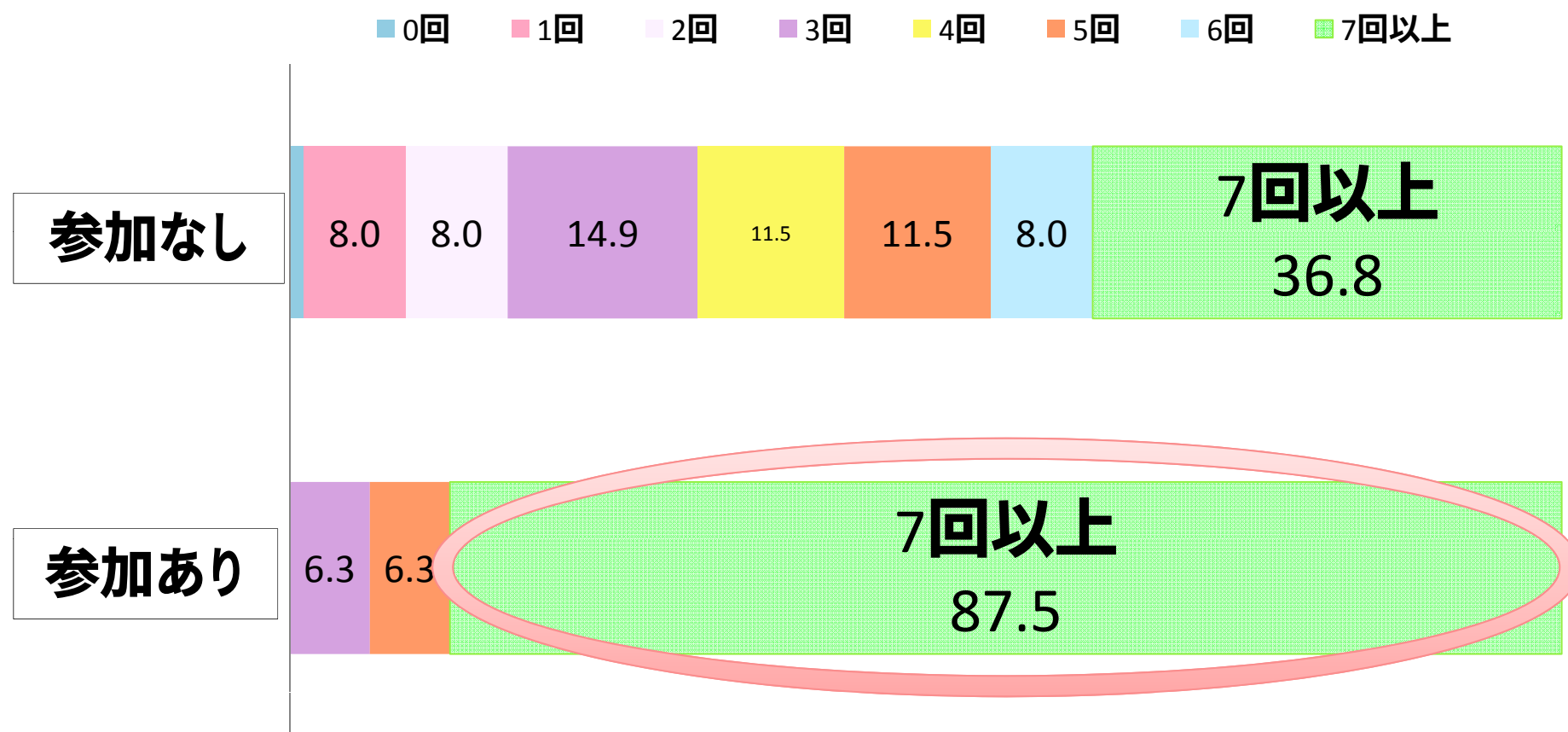
子育て支援プログラム活動への 参加者と不参加者による比較

結果

Q.1年間の食育活動数は何回ですか？

対象：保育園

(子育て支援プログラム活動への参加者と不参加者による比較)



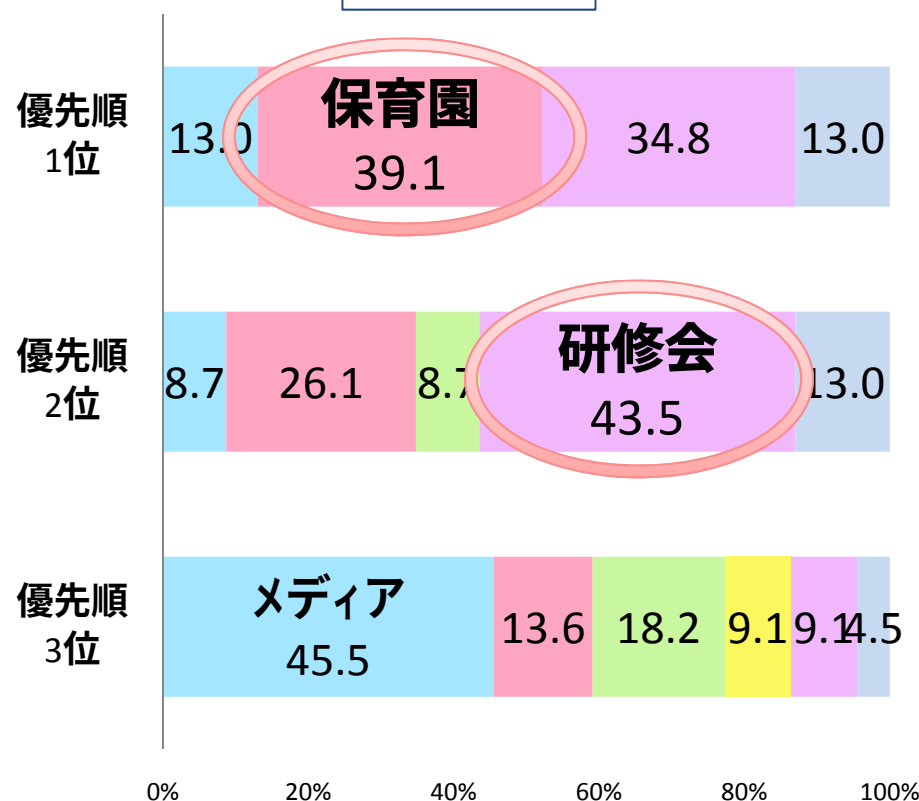
$p < 0.05$

結果

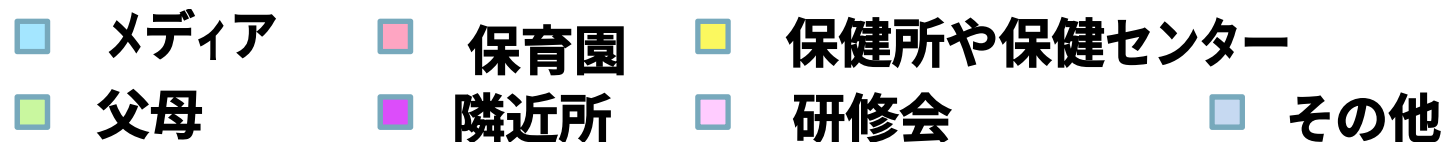
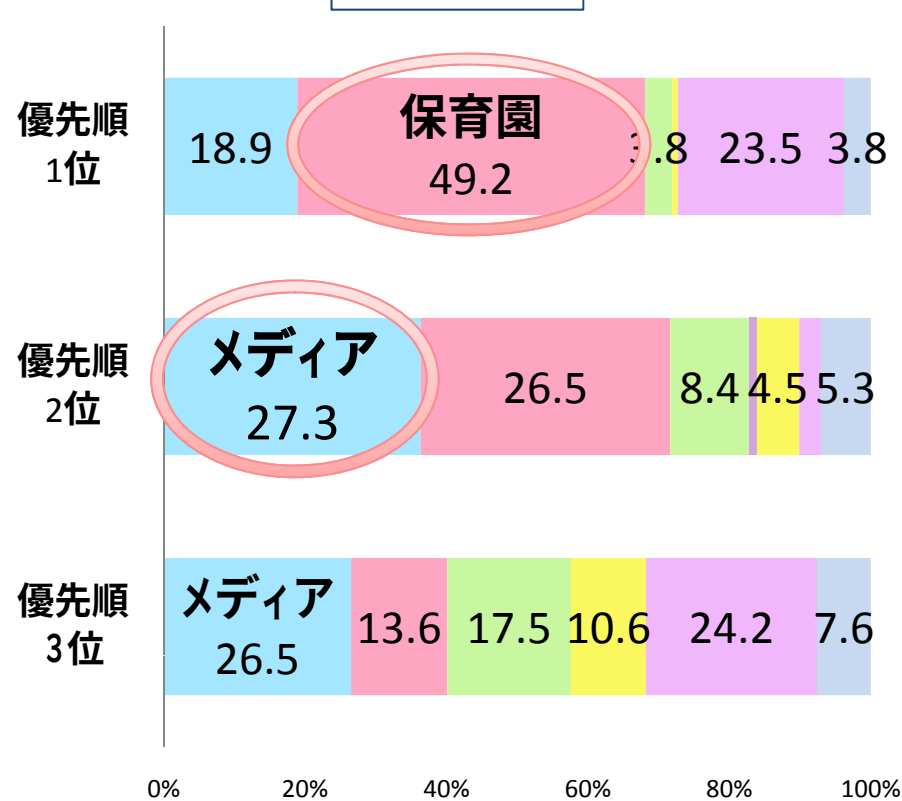
Q.子育てに関する食の情報源は何ですか？

対象：保育園（子育て支援プログラム活動の参加者と不参加者による比較）

参加あり



参加なし



まとめ

現代の保護者の子育て情報源は 祖父母の同居に関係なくメディア



保育園による確かな情報の提供が必要

- 保育者が研修会などを通して子育てや食育に関して正しい知識や技術を身につけることが必要
- 保護者と保育園がお便りなどを通して情報交換を活発に行う
- 保育の中で食育を進めるに当たり各職員が専門性を活かし連携して食育に取り組む